

令和8年3月31日

令和7年度学校評価（年度末）に係る外部評価者の意見

比治山女子中学・高等学校

【外部評価者の意見等】

項目	意見等
学校評価に係る意見○質問	<p>【目標の設定・評価指標・具体的方策】</p> <p>■ 意見</p> <p>○目標と具体的方策が概ね対応しており、取組の方向性は明確である。</p> <p>○一方で、目標がやや抽象的なものも見られ、評価指標との連動が弱い部分がある。</p> <p>○学年・分掌の重点が明確で、学校全体としての体系性が感じられる。</p> <p>■ 質問</p> <p>○方策の中で、特に効果が高いと考えている取組はどれか</p> <p>○個別支援が必要な生徒への対応は、どのように組織的に位置づけられていますか。</p> <p>【最終評価結果】</p> <p>○成果と課題が整理されており、自己評価として妥当である。</p> <p>○具体的な数値や実績に基づく評価がなされており、客観性の確保が図られている。</p> <p>○課題も一定程度明確化されており、改善につながる土台ができている。</p> <p>○評価結果を教職員全体で共有し、次年度の取組へ確実に反映していく仕組みづくりが重要である。</p> <p>○成果および未達成の要因について、さらなる分析を行い、次の方策に生かすことが求められる。</p> <p>○複数の課題の中で優先順位を整理し、重点化を図ることが必要である。</p> <p>○数値的に改善が見られた取組については、継続性・定着化を意識する必要がある。</p> <p>○教員の負担と成果のバランスに配慮し、持続可能な体制の構築が求められる。</p>
学校教育活動全般にかかる意見	<p>○各学年および各分掌において、目標に基づいた教育活動が計画的に実施されており、学校全体としての一体感が感じられる。</p> <p>○中学校から高等学校まで、生活・学習・進路と段階的に生徒の成長を支える指導が行われている点は評価できる。</p> <p>○学習面・生活面・進路面のバランスを意識した取組がなされており、総合的な教育活動が展開されている。</p> <p>○令和8年度から開始される男女共学については、学校の大きな転換点であり、教育活動全体を見直し発展させる好機であると考えられる。これまでの成果を生かしつつ、取組の重点化と組織的な連携強化を図ることで、さらなる教育活動の充実につながることを期待される。</p>

【改善方策】

○評価結果の共有と組織的な改善の推進

成果と課題を教職員全体で共有し、取組の重点化と継続的な改善につなげる体制を強化する。

○学習習慣の定着と個別支援の充実

学年・分掌を越えた連携を図り、全体の底上げと個に応じた支援の両立を進める。

○男女共学化を見据えた教育環境・体制の整備

施設面に加え、指導体制や学校文化の在り方を見直し、多様性を尊重した教育活動の充実を図る。